

しのばず自然観察会より 2024-3 2024.03.02

2024年3月の活動 不忍池 定点観察 3月10日(日)



集合:午前10時 不忍池 蓮池南西端
緑の小旗あり(野外ステージ西側、湯
島天神下交差点寄り)

今回は雨天中止

持物:筆記用具、双眼鏡、飲み物、雨具
(マスク、敷物、昼食、防寒衣)

解散は午後1時頃ボート池畔または藤棚
参加費不要 非会員の参加も歓迎

イチヨウの幹上から伸びる陽光桜の花が見ごろかも。白い花のヴェロニカ(コゴメイヌノフグリ)の花も。去年は3月上旬にアカハジロがいました。

不忍池定点観察 2024年2月11日(日)より

寒波が緩んだとはいえ、晴れ上がったものの風が冷たい朝、9名が参加しました。蓮池の枯蓮が岸から数十mの幅で水面の高さで刈られ、岸に積み上げられていました。また蓮刈用の筏がまだ池に係留中で、作業が完了していないことを告げていました。

蓮池の枯蓮刈りについては、1980?年代でしたか、枯蓮が汚らしいので刈り払えという意見と、野鳥の生息地だから手を付けるなという意見が対立したことがあり、東京都北部公園事務所(現東部)としのばず自然観察会が協議して、しのばず自然観察会の恒例観察会が済んだ後の1月半ば以降、岸から数十メートルまで限定粗て刈る、バンなどの営巣場所になるアシの群落には手を付けないという合意で実施され、現在に至っています。先日、藤沢市の方から聞いたところでは、枯蓮を残して一部を刈っているのは不忍池だけで、他所の池(神奈川県?)では全面刈り取りをしているそうです。なお、不忍池を含む上野公園全体が鳥獣保護区です。

この日は日曜日なので作業員の姿はありませんでしたが、平日には作業員は非常衣類(浮袋)を着用していました。一昨年でしたか、いかにもアルバイト然の作業員が浮袋なし、ロープ



刈られた蓮は岸上に積まれていた

なしで泥深い池に入っていましたが、このような危険な状態は改善されたようです。

ボート池では部分浚渫を実施中で、区域には目印のロープと浮きが張られています。ただ、このロープを越えようとするボートが後を絶たず、ボート乗り場ではひっきりなしに拡声器で危険を訴えていました。足漕ぎボートでは、ロープがスクリューに絡まる恐れがあります。

枯蓮刈りで見かけの水面が広がった蓮池ですが、あいかわらずオナガガモとオオバンが数羽、それにユリカモメが加わるという状態です。ただ、この日はコガモがひとつがい現れました。数年前まで見られたヨシガモやオカヨシガモは見つかりませんでした。また、残った枯蓮の中に、アオサギが数羽、ほぼ等間隔で立っていました。

確認した鳥:オナガガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、コガモ、カルガモ、カワセミ、キセキレイ、ハクセキレイ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、カイツブリ、ユリカモメ、セグロカモメ、ムクドリ、ヒヨドリ、メジロ、アカハラ、ドバト、スズメ、ハシブトガラス、

不忍池の COD パックテスト測定結果(2024年2月11日採水)

1月の観察会が雨天のため2月に延期された不忍池のCOD簡易測定ですが、2月11日の観察会の折りに採水しました。ところが、小川潔が試薬を自宅の玄関に置き忘れてきたため、水を寒い所で保管し、2月14日にパックテスト試薬を用いて測定しました。

COD(mg/l)	2016. 01.10	2017. 01.08	2018. 01.14	2019. 01.13	2020. 01.12	2021. 01.10	2022. 01.16	2023. 02.19	2024. 02.11
1. 蓮池弁天堂前	7	5	8	8	4	11	4	4	5
2. 動物園池弁天堂前	5	4	7	7	7	6	3	5	7
3. ボート池南西端堰	5	7	5	7	3	12	5	3	4
4. ボート池ボート場横	4	4	5	30	4	5	4	4	4
5. 動物園池弁天堂後	7	20	8	7	4	17	5	6	5
6. 蓮池弁天堂後	8	4	7	10	6	20	7	10	7

化学的酸素要求量(COD:水中の有機物を分解するのに必要な酸素量) 単位はO₂-mg/l

以前、局所的に見られた突発的な高い数値は今回はありませんでしたが、あいかわらず蓮池の弁天堂後ろの橋のたもとが相対的には高く出ています。浚渫中のボート池は相対的には低い値でした。浚渫以降、落ち着くまでしばらくはモニタリングが必要でしょう。蓮池、動物園池とも浅くなって来ていて、浚渫が必要かも知れません。両池とも、ハスが繁茂しているので、ボート池で用いている吸引式の浚渫は使えないかも知れません。

谷中霊園のニリンソウ保護に向けて

2023年春、谷中霊園東崖のニリンソウ群落の一つがコバンソウに覆われてしまったことに対して、この間小川潔が、谷中霊園管理所や谷中地区連合町会まちづくり協議会環境部会、台東区まちづくり部谷中担当課に報告や相談をしたほか、都立赤塚公園の「ニリンソウを守る会」の活動を参考にさせていただき、2024年1月14日には同会の除草作業の見学に行ってきました。

ニリンソウは2月下旬には芽が伸び始めるため、群落に踏み込んでの作業ができるのは2月前半くらいまでのようです。一方、コバンソウは越年生一年草のようで、冬の間はたねから芽が伸び始め、春になると展葉期がニリンソウと重なってしまいます。当初、霊園事務所の方で草刈りの委託事業の時期を変えることを検討してみたのですが、ニリンソウの地上部が消える初夏以降の草刈りは、ニリンソウの生育にはあまり意味がなく、かえってコバンソウのタネをばらまいてしまうおそれもあります。そこで今年は、群落の外縁から届く範囲でコバンソウを除去し、次年の1~2月に徹底した除草を計画したいと思います。

当面の手作業による除草は、3月中に行いたいのですが、あらかじめ霊園管理所に届を出すことになっているので、ボランティア協力をいただける方は、以下の日程の都合をお知らせください。小川潔は腰痛のため、かがんでの作業ができません。狭い急斜面なので、足腰に不安がある方は適しません。この時期は群落に踏み込めないため、長柄の草刈りハサミの購入も計画しています。

3月13日(水)、14日(木)、15日(金)、16日(土)、17日(日)のいずれかの日、午前10時半頃から昼くらいまでを予定します。参加可能な方は、7日(木)昼までに電話かメールで小川までご連絡ください(ogawak@view.ocn.ne.jp を@に代えて送信を)。連絡いただいた方へは、日程・集合地を決まり次第お伝えします。なお、谷中霊園のもう一つのニリンソウ生育地にもコバンソウが侵入し始めていて、次年には対策が必要になりそうです。



崖のニリンソウ開花時(撮影 2015.04.12)



2023年4月のコバンソウ繁茂

2月11日の観察会から 小川千恵子

9:11

ボート池に張り出した浮き橋の手前にあるハンノキの南側の草地にドバトがギッシリ、群がっている。数えると42羽。そのすぐそばの池の中の鉢の真中にコサギ1羽。

浮き橋先の水面にはキンクロハジロ82羽。身体の白黒がはっきりしていて雌雄の区別は容易。雌14羽、雄68羽。オナガガモがペアで2組、キンクロハジロ達の中に泳いで入って行く。ホシハジロが水の中の鉢の縁にペアで丸くなっている。東側の鉢の周りにもホシハジロ雌1羽、雄4羽。(あとで、皆で見た時は雌2羽、雄7羽。)オオバンの鳴き声が響く。

動物園の中からはシジュウカラの声とジャツジャツという声も聞こえる。ひっくり返したボートの上にはユリカモメの他にカワウ1羽、セグロカモメ1羽もいる。セグロカモメは薄ピンク色の左脚を上げて頬辺りを何度もこする。池の北側の鉢の縁にはオナガガモ雌2羽、雄2羽とカルガモ2羽が上がっている。その隣の鉢にはオナガガモ雌3羽、雄3羽が眠り、別の雄3羽が毛づくろいしている。

池の西北隅の地面に、スイセンが咲く。

ハンノキの所に戻る。ハンノキは去年の実の他に雌花、雄花が付いている。

ハンノキの隣の桜の木の手前のベンチ前の地面にコサギ位の背丈の小さなアオサギが立っている。ベンチに座っている年配男性がパンのかげらを1個放るとアオサギは地面に落ちたパンをパクリと食べる。ユリカモメとドバトが寄って来るが、アオサギも年配男性も無視。少しして、ユリカモメとドバトが離れると年配男性はヒョイとパンをアオサギに放る。アオサギはパクリと食べ、ユリカモメとドバトはあわてて寄って来る。ユリカモメは数がふえ、けたたましく鳴きながら寄る。と、年配男性は立ち上がって手を挙げて振り、ユリカモメとドバトはパツとその場を離れるがアオサギはそのまま立っている。年配男性はまたパンを放る。アオサギはパクリ。共にとても慣れている。とうとうアオサギまでか餌付けされたんだ！すぐそばの手すりには公園事務所名でえさはやらないで、と掲げられているのに。こういう場面では本当はどうしたら良い？

集合時間がせまり、急いで集合地へ。ツグミが樹上に止まり、すぐ飛んで行った。タチアオイは背丈が低いまま葉が地面に広がる。

集合地から

蓮池の蓮は茶色の棒だけが立っているように見える。池の縁は10~25m位刈られて水面が出ています。柳の薄緑の葉が少し出始めている。桜は蕾がついているのがわかる。カンナはどうとう葉が枯れて茶色になり、下の方に少し緑の葉が残る。茶色の枯れ葉の中にスイセンが咲いている。菊は丈は低くなったが緑の葉。

水上音楽堂から池の西側を見るとぎっしり立っている棒のように見える蓮の中に白く動く物が見える。弁天堂方向にも。その中間あたりにも。コサギ？ダイサギ？東の方を見るとアオサギらしき姿が枯蓮の間に。何羽居るのか正確にはわからない。横に並んで3箇所にいる。

浮き橋入口左のアメリカセンダングサは枯れてしまった。ヨシを折って中を見るが、ビワコカタ

カイガラモドキの姿は無い。ヨシの茎の中は発泡スチロールのトレイに似た密な感じの白いものが詰まっている。ピワコカタカイガラモドキはこれを食べているんだ。

ハクセキレイが蓮の根元の折れた枝に鳴きながら飛んで来て止まるが、すぐまた飛び立ち西の方へ。

下町風俗資料館手前で餌をやっている人がいて、ドバトが群がっている。数えると100位。南の植え込みの中に20位。池のそばにカワズザクラが2本並び、北隣に1本の木をはさんでもう1本のカワズザクラがある。前の2本は蕾が大きくなって濃いピンク色になっている。2本目の桜は1輪咲いていた。3本目の蕾はまだ固い。カワズザクラの下は池から刈られた蓮が山積みになっている。3本のカワズザクラの北の方に丈が160cm位で、横に枝が広がったタイリョウザクラと札の付いた桜があるが、蕾が大きくなっていった。

弁天堂入口手前の水が流れ込んでいるところに4本の丸い大きな円筒形の物の上に板がのせられた大きな筏が2艘つないで浮いていた。池縁の蓮刈り舟と思う。

カワセミがヨシ原に見える。コサギが3羽飛んで来た。2羽がけんかをしているのかと思ったが、どうやらペアリングらしい。



コガモ雄

Koさん、Saさんがコガモがペアでいると言う。もう1羽雄がいた。眼のうしろの帯のようにになっている深い緑の光沢が美しい、と思ったら、反対方向に向かっている時は紫に光っていた。

弁天堂入口左、露店の後(池の縁)に大きな松。途中の枝も無く、大きな曲がった幹の上の方に葉が茂っている。ここにこんな松があったことに初めて気づく。

弁天堂大藤棚西側の大きなユッカにメジロがいてとKoさんが知らせてくれる。ほんの100cmの距離。メジロはユッカの花を次々にのぞき込んでいるが、蜜は見つからなかったらしくて、飛んで行ってしまふ。

柿の実はいくつも無い。ムクドリが飛んできて、すぐ行ってしまふ。他の人達来ない。何かを見ている。藤棚へ戻る。カワセミが良く見えて嘴は黒いから雄。

1月の観察会が雨で中止になったので、池の水を取る。全てKuさんがすくってくれて大活躍。それなのに潔は分析の道具一式を自宅玄関に置いてきてしまった！

しのばず自然観察会 事務局 〒110-0001 台東区谷中3-1-9 小川潔方
1975年創立 電話03-3828-8775 URL: <http://sinobazu.extrem.ne.jp>
郵便振替 00100-8-84609 しのばず自然観察会 年会費2,000円 ほかに行事参加費

2023年以前の会費未納の方もお忘れなく！退会の場合は早めに葉書で事務局へ